

Hokkaido University News

北大時報

平成30年

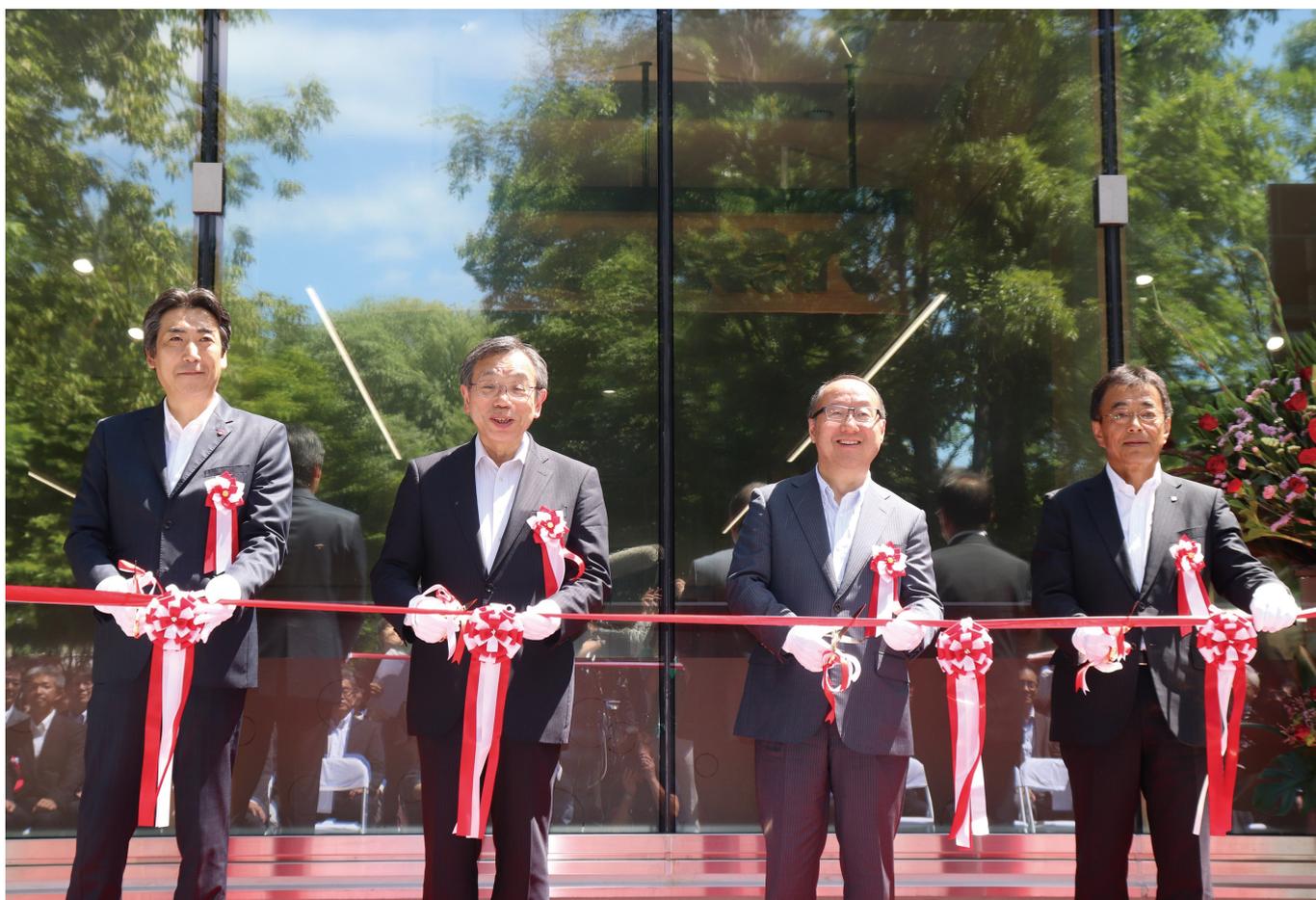
8

No. 773 August 2018

本学名誉教授が「平成30年度北海道社会貢献賞（国際交流・協力功労者）」を受賞
新感覚コンビニエンスストア セイコーマート北海道大学店 グランドオープン
北海道大学 緑のビアガーデン2018を開催

お知らせ

・組合員証等の検認





緑のビアガーデン2018



平成30年度「ホリデーイン日高」を開催

■ 全学ニュース

- 1 船水尚行名誉教授が「平成30年度北海道社会貢献賞（国際交流・協力功労者）」を受賞
- 1 タイ農業協同組合省（MOAC）、地理情報・宇宙技術開発機関（GISTDA）との連携協定を締結
- 2 名和総長が英国4大学を訪問
- 3 新感覚コンビニエンスストア セイコーマート北海道大学店 グランドオープン
- 3 北海道大学 緑のビアガーデン2018を開催
- 4 緑のジンギスカンWineガーデン&Beer祭りを開催
- 4 海外同窓会代表者の情報交換会を開催
- 5 北海道大学アンバサダー（英国）委嘱状交付式を開催
- 6 北大フロンティア基金
- 8 平成30年度北海道大学入試説明会を実施
- 8 清華大学・北海道とフォーラムを共催
- 9 忠北大学校尹 汝杓（ユン・ヨピョ）総長に北海道大学名誉博士を授与
- 10 平成30年度北海道大学新渡戸賞授与式を挙行
- 11 平成30年度「ホリデーイン日高」を開催
- 12 平成30年度北海道大学公開講座「去る時代、来たる時代を考える」が終了
- 13 平成30年度「ひらめき☆ときめきサイエンス推進賞」を北方生物圏フィールド科学センターの荒木教授が受賞
- 13 札幌キャンパスで特定外来生物防除を実施
- 14 「第3回 北海道大学フィンランドデイ みんなで夏至祭を楽しもう！」を開催
- 15 「BIO tech 2018アカデミックフォーラム」に出展
- 15 国際連携研究教育局（GI-CoRE）人獣共通感染症グローバルステーションが第6回人獣共通感染症克服のためのコンソーシアム会議を開催

■ 部局ニュース

- 16 獣医学研究院・獣医学部が札幌市動物管理センターと連携協定を締結
- 16 薬学研究院・薬学部及び生命科学院が英国・オックスフォード大学と部局間交流協定を締結
- 17 低温科学研究所が揚州大学生命科学及び技術学院と部局間交流協定を締結
- 17 法学研究科、公共政策学連携研究部でFD研修を開催
- 18 経済学院・会計専門職大学院で公認会計士制度説明会を開催
- 18 第11回日本数学会季期研究所及び市民講演会を開催
- 19 薬学部で第21回生涯教育特別講座夏季講演会を開催
- 19 平成30年度薬学研究院FD講演会を開催

- 20 工学系部局で「第1回こころの健康セミナー」を開催
- 20 農学研究院で平成30年度第1回FD研修会を開催
- 21 ミュージアム学芸員リカレント教育プログラム開始～公開シンポジウムの開催
- 22 スラブ・ユーラシア研究センター夏期国際シンポジウム「移りゆく北極域と先住民社会——土地・水・氷」開催
- 23 メディア・コミュニケーション研究院公開講座「世界の言語と文化」が終了
- 23 北方生物圏フィールド科学センター植物園で小学生向け公開講座「葉っぱで作る植物図鑑」を開催
- 24 総合博物館で博物館の「建物」に注目する学生企画ワークショップを開催～めぐる建物 感じる歴史 みんなのまなざし再発見～
- 25 北海道大学病院で夜間想定防火訓練を実施
- 25 北海道大学病院で「第58回ふれあいコンサート 七夕の夕べ」を実施
- 26 北海道大学病院が夕張市市民公開講座を開催
- 26 北海道大学病院でデジタルサイネージを導入
- 27 北海道大学納骨堂慰霊式を挙行
- 27 フィンランドをテーマとした図書展示とブックトークを開催
- 28 北海道大学150年史編集準備室を開室

■ お知らせ

- 29 組合員証等の検認

■ レクリエーション

- 30 平成30年度学内職員バドミントン大会（個人戦）の開催

■ 諸会議の開催状況 32

■ 学内規程 33

■ 表敬訪問 34

■ 人事 35

- 35 新任部局長等紹介

■ 訃報

- 36 名誉教授 森田 穰 氏



獣医学研究院・獣医学部
札幌市動物管理センターと連携協定締結



北方生物圏フィールド科学センター植物園
小学生向け公開講座を開催



北海道大学病院
第58回ふれあいコンサート 七夕の夕べ



附属図書館
フィンランドをテーマとした図書展示

■ 全学ニュース

船水尚行名誉教授が「平成30年度北海道社会貢献賞(国際交流・協力功労者)」を受賞

船水尚行名誉教授が、東欧及びアフリカ諸国から受け入れた多数の研究員を指導するとともに、発展途上国に研究員を派遣し、現地の人材育成に努めるなど、発展途上国の水・衛生分野の発展に貢献したことに對して「平成30年度北海道社会貢献賞(国際交流・協力功労者)」を受賞されました。

北海道社会貢献賞は、多年地方自治の進展、社会福祉の増進、保健衛生の向上等に貢献し、その功績が顕著なものに對して、北海道知事が表彰するものです。船水名誉教授は、このうちのひとつとして、国際交流・親善及び協力の推進に貢献し、その功績が顕著な個人、団体、企業へ贈られる「北海道社会貢献賞(国際交流・協力功労者)」

を受賞しました。

8月4日(土)に京王プラザホテル札幌で行われた表彰式では、辻 泰弘北海道副知事から表彰状が手渡され、船水名誉教授から「水と衛生の問題はSDGsの中にも重要な課題として取り上げられており、世界が取り組むべき喫緊の課題の一つである。水と衛生の

分野について、開発途上国をはじめ、世界の若い世代の育成にこれからも尽力し、北海道を水と衛生分野の世界の先進地とするべく、努力していきたい」との言葉がありました。

(国際部国際企画課)



表彰状の授与



表彰状を手にする船水名誉教授(一番右)

タイ農業協同組合省(MOAC)、地理情報・宇宙技術開発機関(GISTDA)との連携協定を締結

7月31日(火)、タイ王国バンコク近郊のインパクト・チャレンジャー・ホールにおいて、本学とタイ農業協同組合省(MOAC)、地理情報・宇宙技術開発機関(GISTDA)との間で連携協定の調印式が執り行われました。本学からは、名和豊春総長、増田隆夫工学研究院長、横田 篤農学研究院長、野口 伸農学研究院副研究院長、山田敏彦国際食資源学院副院長、川野辺創国際連携機構副機構長他、2名の教職員が参加しました。

同日午前には、在タイ日本国大使館の協力のもと、本学関係者と日系企業関係者として連携協定に関する産学ミーティングを行いました。タイ政府は現在新たな経済政策であるThailand4.0*を進めており、人工衛星等を活用したスマート農業に力を入れています。今回の協定で対象とするこれらの研究領域は、本学が進めている「ロバスト農

林水産工学国際連携研究教育拠点構想」と密接に関係しており、農学研究院や工学研究院をはじめとする本学の複数の部局が関わって、積極的に推進しています。

同日午後に行われた調印式では、辻泰弘北海道副知事の挨拶に続き、MOAC大臣顧問のナロン・オンサード氏より挨拶をいただきました。その後、名和総長、ラートビロージ・コワッタナMOAC事務次官、アノンド・スニドボンGISTDA長官がそれぞれ協

定書に署名しました。調印式には、関係者およそ100名が出席しました。

本協定の締結を契機に、本学とタイとの間にこれまで以上に深い繋がりが生まれ、協力関係が活発に推進されることが期待されます。

*農業分野など10分野へ投資を呼び込み、高い付加価値と競争力を持つ産業へと高度化させ安定的な経済成長を達成させる施策。

(国際部国際連携課)



調印式の様子

名和総長が英国4大学を訪問

7月16日（月）～20日（金）にかけて、名和豊春総長が英国の4大学の副学長等執行部を表敬訪問したほか、研究施設見学や研究者らとの懇談を行いました。今回の訪英では、リーズ大学をホスト校として開催された名和総長の研究分野でもある工学系の学会、「The Sixth International Conference on the Durability of Concrete Structures (ICDCS 2018: 第6回コンクリート構造物の耐久性に関する国際会議)」に基調講演者として招へいされたことに伴い、オックスフォード大学考古学研究所でのアンバサダー委嘱式出席や、同学医学部局との薬学研究院部局間交流協定の締結、ケンブリッジ大学及びアステックス社の視察、総長自身の共同研究に関わりのあるシェフィールド大学等を訪問しました。

基調講演者として参加した、ICDCS 2018では、名和総長のセメント材料研究分野への持続的で長期にわたる貢献と、材料技術によるコンクリートの耐久性を強化すべく研究応用を推進したことに対して、「Lifetime Achievement Award (生涯業績賞)」が授与されました。

オックスフォード大学では、本学学生の短期受入先であるウースターカレッジのプロボストであるジョナサ

ン・ベイト卿と懇談し、アイヌ・先住民研究センターとの繋がりが深い考古学研究所長のクリス・ゴスデン教授にアンバサダーを委嘱、薬学研究院の前仲勝実教授が連携している薬学医学系研究施設を見学しました。また、リーズ・リチャードソン副学長*と面談し、大学間交流協定の締結について今後調整していくことで合意しました。

ケンブリッジ大学では、日立ケンブリッジ研究所の量子コンピュータを見学し、前仲教授と交流しているアステックス社で、ケンブリッジ大学のトム・ブランデル卿も参加して同社が進める創薬開発プラットフォームについて説明を受けました。ケンブリッジ大学のクリス・エイベル研究担当副学長代理*との懇親会では、大学の運営、執行部とカレッジとの関係性、ブランド・質の担保等について意見交換を行いました。

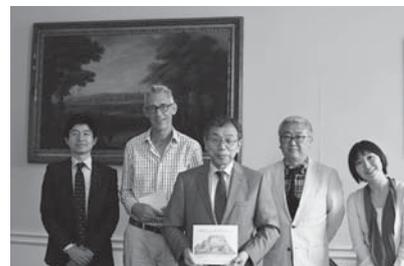
リーズ大学では、副学長*であるアラン・ラングランズ卿とハイスイ・ユ国際担当副学長代理と伝統的なオックスフォード大学やケンブリッジ大学とは異なる、極めて現代的な大学における運営形態、資金や優秀な教員の獲得について懇談しました。

滞在の最後に訪問したシェフィールド大学では、名和総長の共同研究の連

携相手である、ジョン・プロヴィス教授の手配の元、マイク・ハウンスロー研究担当副学長と大学における外部資金獲得、自立したエコシステムを立ち上げること等について懇談を行い、同副学長肝煎りの工学研究棟The Diamond（ザ・ダイヤモンド）を見学しました。ドイツ企業シーメンスから施設維持迄の融資を受けている大学だけあり、工学研究棟は素晴らしい施設で、既に学期は終わっていたものの、熱心に活動している学生が多く見受けられました。

*英国の大学においては、副学長が事実上の学長である。副学長代理は、副学長相当である。

(国際部国際連携課)



ウースターカレッジのプロボストと



オックスフォード大学リチャードソン副学長と



アステックス社訪問



ケンブリッジ大学エイベル副学長代理と



リーズ大学ラングランズ副学長と



シェフィールド大学ハウンスロー副学長と



受賞の様子

新感覚コンビニエンスストア セイコーマート北海道大学店 グランドオープン

本学は、株式会社セコマと連携し、7月24日（火）、札幌キャンパスの中央（札幌市北区北11条西7丁目）に、新感覚コンビニ「セイコーマート北海道大学店」を開店しました。

本学と株式会社セコマは、本年4月、食と安全の分野における製品の分析や商品の共同開発の推進等のため、地域創生連携協定を締結しています。本店舗は、デザイン・設計・建築を北海道の企業である株式会社土屋ホームが担い、建物の一部に北海道紋別産カラマツを使用しているなど、「北海道産」を前面に打ち出しています。また、店舗内には、地域創生連携協定の成果第一弾である、北海道豊富町産の牛乳を使用し、たんぱく質が多く含まれる健康アイス（本学とセコマグループが共同開発）を販売しています。

名和豊春総長は、同日のオープニングセレモニーで「新店舗が多くの方に愛され、地域社会・地域経済の発展と活性化の足がかりとなってほしい」と祝辞を述べました。株式会社セコマの丸谷智保社長からは、「教職員や学生の方々はもちろん、道民や観光客の皆様が自由に行き来できる空間として、末永く愛していただきたい」と意気込みを語っていただきました。

【セイコーマート北海道大学店について】

本店舗は、一般的なコンビニの概念にとらわれない新しい発想でデザインされています。店舗前のベンチなどゆとりのある空間を作り、開放的な2階の屋外テラスでは、色彩豊かな本学の四季を感じていただけます。

1階にはインフォメーションコー

ナーを設け、本学の歴史や最先端の研究成果など、本学の魅力を学外に発信するための広報スペースとして活用します。2階の休憩スペースにはテーブルやイス、キッチンを配置し、セミナーやイベントなどで利用することができます。

【地域創生連携協定について】

北海道大学が有する研究・教育機能及び知識・技術・ノウハウの集積と、セコマグループのサプライチェーンとしての機能を活かし両者が連携することによって、地域社会・地域経済の発展と活性化に資することを目的としています。

（総務企画部広報課）



テープカットに臨む名和総長（中央左）ら



店舗を内覧する名和総長（左）と丸谷社長（右）



店舗2階のテラスにて

北海道大学 緑のビアガーデン2018を開催

今年で13回目となる緑のビアガーデンを、北海道大学校友会エルク、北大マルシェ Café&Labo、キリンビール株式会社、有限会社エスパシオ（元祖美唄やきとり福よしグループ）の協力のもと、7月30日（月）から8月3日（金）まで開催し、無事終了しました。

今年は「元祖美唄やきとり福よし」が、できたての焼鳥やとりだしそばなどをフードメニューとして提供したほか、期間中は天候にも恵まれたおかげで、緑あふれるキャンパスでのビアガーデンを、多くの皆様に楽しんでい

ただくことができました。

北大キャンパスの夏の風物詩として地域に定着し、毎年楽しみにして下さるお客様が増えています。賑わいあ

ふれるビアガーデンに成長したことを実感できる5日間でした。

（総務企画部広報課）



北大の夕べを楽しむ皆様



賑わうフードコーナー

緑のジンギスカンWineガーデン&Beer祭りを開催

本学、株式会社セコマ、サッポロビール株式会社、株式会社ニュー三幸は、7月24日（火）に開店した新感覚コンビニ「セイコーマート北海道大学店」のオープン企画として、「緑のジンギスカンWineガーデン&Beer祭り」を8月6日（月）から5日間、期間限定開催しました。店舗2階のテラスに

加えて、ストア前のメインストリートを開放し、ジンギスカン、ワイン、そして冷えたビールが提供されました。

初日には名和豊春総長や株式会社セコマの丸谷智保社長も駆けつけ、交流を深めました。また、報道機関の関心も高く、多数の報道関係者が取材に訪れていました。

晴れた日には2階テラス118席、ストア前176席が一杯になるほどの多くの方にお越しいただき、緑豊かなキャンパスでのひとときをお楽しみいただきました。

（総務企画部広報課）



名和総長（右）と丸谷社長（左）



1階ストア前広場の様子



2階テラスの様子

海外同窓会代表者の情報交換会を開催

6月18日（月）、本学・学術交流会館において、校友会エルム総会の海外同窓会代議員として来日された皆様との情報交換会を開催しました。

今回来日された同窓会代表者は合計7名：ヴィクトール・コルスノフ氏（北海道大学サハリン校友会会長、サハリン国立総合大学国際部部長）、マイケル・プロメンティエーラ教授（北海道大学フィリピン同窓会副会長、デ・ラ・サール大学）、ジントナ・ウォンタ氏（北海道大学タイ同窓会副会長、モンクット王工科大学トンプリー校講師）、幾島章仁氏（北海道大学ベトナム同窓会会長、ハノイ三国歯科ベトナム代表）、富士原寿治氏（北海道大学バンコク同窓会会長、クルンタイ興銀リース株式会社社長）、本橋幹久氏（北海道大学ブラジル同窓会会長）、林 素鳳教授（北海道大学台湾同窓会会長、台湾中央警察大学）です。

情報交換会では、これまでに行ってきた同窓会活動の事例の他、今後校友会を通じてどのような協力要請が予想されるか、それについてどのような対応が必要か等について活発な意見交換が行われました。

その後、川野辺創国際連携機構副機構長から、今後、北海道大学アンバサ

ダー・パートナーへの委嘱とその後の活動協力も含め、本学の国際広報と同窓会ネットワークの発展及び活性化への協力要請があり、会合は終了しました。

（総務企画部広報課）



出席者一同

北海道大学アンバサダー（英国）委嘱状交付式を開催



名和総長（左）とクリス・コスデン教授（右）

7月16日（月）、英国・オックスフォード大学において、クリス・コスデン教授に対して、北海道大学アンバサダー委嘱状の交付を行いました。

コスデン教授はオックスフォード大学・考古学研究所所長として本学アイヌ・先住民研究センターと多くの共同研究に取り組んできたうえ、センター長を務めるアジア考古学・芸術・文化オックスフォードセンターと本学アイヌ・先住民研究センターとの間の部局間協定締結にご尽力くださいました。

また、日本学術振興会研究拠点形成事業（先端拠点形成型、2013年採択）では、イギリス側のホストとして毎年共同ワークショップを開催し、加えて2014年から本学の短期留学スペシャルのオックスフォード大学側のコーディネーターとして、毎年本学の学生を受け入れ、本学との共同講義を担当するなど、学術研究・教育両面において多大な協力をいただきました。

今回の委嘱を機に、アイヌ・先住民研究センターを軸にした本学との学術交流の更なる発展に加え、オックスフォード大学をはじめとする英国の大学と本学との間でのラーニングサテライトやサマー・インスティテュート等を通じた教育・研究交流活動の推進がますます期待されます。

なお、今回の委嘱により、アンバサダーは32人、パートナーは123人となりました。国別の内訳は以下のとおりです。

国・地域名		アンバサダー	パートナー
アジア	インド	1	
	インドネシア共和国	2	7
	シンガポール共和国		1
	タイ王国	2	8
	台湾		2
	大韓民国	3	59
	中華人民共和国	1	8
	日本	1	
	ネパール連邦民主共和国		1
	バングラデシュ人民共和国		1
	フィリピン共和国	3	1
	マレーシア	2	2
	ミャンマー連邦共和国	4	
モンゴル国	1	2	
ヨーロッパ	イタリア共和国		1
	英国	1	
	ウズベキスタン共和国	1	1
	カザフスタン	1	
	スイス連邦	2	
	スウェーデン王国		1
	セルビア共和国		1
	ドイツ連邦共和国	1	1
	フィンランド	1	3
ベルギー		2	
北米	アメリカ合衆国	1	2
	カナダ	1	2
中南米	コロンビア共和国	1	
	ドミニカ共和国		1
	ブラジル連邦共和国	1	2
	メキシコ合衆国		1
中東	パレスチナ		1
アフリカ	エチオピア連邦民主共和国		1
	ザンビア共和国	1	10
	南アフリカ共和国		1

（総務企画部広報課）

（平成30年7月1日現在）

北大フロンティア基金

北大フロンティア基金は、本学の創基130年を機に、教育研究の一層の充実を図り、これまで以上に自主性・自立性を發揮して大学としての使命を果たすため、平成18年10月に創設しました。

募金目標額は50億円です。奨学金制度の充実や留学生への支援などの学生支援を中心に、研究支援、学部等支援など様々な事業を行っており、期限を付さない、息の長い募金活動することとしています。

皆様には基金の趣旨にご賛同いただき、ご協力をお願いします。

北大フロンティア基金情報
基金累計額（7月31日現在）

22,706件 4,519,130,330円

7月のご寄附状況

法人等14社、個人202名の方々から18,977,961円のご寄附を賜りました。

そのご厚志に対しまして感謝を申し上げますとともに、同意をいただいているの方々のご芳名、銘板の掲示、感謝状の贈呈について掲載させていただきます。（五十音別・敬称略）

寄附者ご芳名（法人等）

一般財団法人協済会、杏林製薬株式会社、株式会社クボタ、有限会社札幌庭園工業、JKソリューション株式会社、中外製薬株式会社、株式会社千代田テクノル、苫小牧市立病院、医療法人社団 苫小牧東部脳神経外科、北大医学部31期会、一般社団法人 北海道医薬品卸売業協会

寄附者ご芳名（個人）

合川 正幸	相澤 宏修	青木 伸	阿久澤玲子	鐙 邦芳	有好 利典	石井紀恵子	石井 清一
石黒 正幸	今村英一郎	入澤 秀次	岩崎 誠	岩下 明裕	岩野 弘幸	上田 諭	植松 高志
宇原 久	梅本 幸男	江川 良武	押領司親史	大黒 弘樹	大田 雅嗣	大野 陽介	大橋 聖也
岡村 篤	小木曾嘉文	小熊 祐子	小内 透	小野 知子	小原 大和	加内 一也	方波見基雄
加藤 良則	金川 眞行	金沢 巧	川上 秀明	河尻 英治	河本 充司	川本 思心	岸 大輔
岸 玲子	木島 英夫	木野 紀	木股 昌俊	木村 昭彦	木村園子 ドロテア	木村 範明	木脇 祐普
日下 大器	工藤 勲	工藤 哲靖	工藤 英夫	工藤 瑞生	後藤 泰	小林 修	小守林 訓
今 裕史	近田 誉	斉藤 久	坂本 大介	佐久間 純	佐藤 市雄	佐藤 紘一	三升畑元基
鹿野 淳子	志済 聡子	柴田 祐次	渋谷 正人	島田 武	清水 文彦	清水池義治	釈圃 秀明
白井 慎一	杉江 和男	鈴木 貴之	鈴木 章之	首藤安都子	瀬名波栄潤	高木 正和	高杉 佑一
竹内 尚樹	竹内 義治	竹下 忠彦	田嶋 景子	橘 雅洋	田中 育子	玉井 勇	千葉 博文
辻 英幸	土家 琢磨	土屋 裕	角井 淳一	寺澤 睦	富樫 健	戸城 博行	戸田 純子
豊田 威信	仲 裕	中井 忍	中島 順二	中塚 英俊	中野 弘	中村 憲治	中村 隆夫
南須原康行	並木加代子	並木 壯壽	西尾 正人	野口 徹	野島 孝之	長谷川 功	早川 佳邦
萬代 泰久	平井 康市	廣瀬 道雄	深澤雄一郎	福島 義和	藤居 庸郎	星野 謙蔵	細川 里香
本間 行彦	本村 文宏	前頭 光治	前島 一淑	前田 博	牧田 章	政氏 伸夫	町田 泰一
松岡 伸一	松川 精一	松沢 幸一	松原 謙一	松村 道哉	水島 徹治	皆川 一志	皆川 知紀
宮下 舜一	宮田 信幸	村上 幸夫	村島 義男	村松 卓己	森 修	森川 隆	森田 尚幸
八重樫幸一	山本 明佳	山本 孝二	横田 正樹	吉江 晴貞	吉尾 弘	吉澤久美子	吉田 広志
吉田 裕子	脇坂 明美	和田 周子					

銘板の掲示 (20万円以上のご寄附)**(法 人)**

杏林製薬株式会社, 株式会社クボタ, JKソリューション株式会社, 苫小牧市立病院, 北大医学部31期会

(個 人)

鏡 邦芳, 木島 英夫, 小林 謙太, 今 裕史, 高杉 佑一, 玉井 勇, 並木加代子, 南須原康行, 深澤雄一郎,
松岡 伸一, 皆川 知紀, 宮下 舜一

感謝状の贈呈

小坂達朗 様 (平成30年7月6日)



北海道ガス株式会社 様 (平成30年7月11日)



矢ヶ崎啓一郎さま (平成30年7月27日)
(代理贈呈: 横田農学研究院長)

ご寄附のお申し込み方法

北大フロンティア基金ホームページの「教職員の方によるご寄附について」にアクセスして下さい。

<https://www.hokudai.ac.jp/fund/howto-staff.html>

① 給与からの引き落とし

ホームページから「北大フロンティア基金申込書 (兼・給与口座からの引落依頼書)」をダウンロードし、ご記入の上、基金事務室に提出してください。

② 郵便局または銀行への振り込み

基金事務室にご連絡ください。払込取扱票をお送りします。

③ 現金でのご寄附

寄附申込書に現金を添えて、基金事務室にご持参ください。

申込書は、ホームページから「北大フロンティア基金申込書 (教職員現金用)」をダウンロードしてご記入いただくか、基金事務室にもご用意していますので、基金事務室にお越しただいてからご記入いただくことも可能です。

④ クレジットカード決済・コンビニ決済でのご寄附

北大フロンティア基金ホームページ

(<https://www.hokudai.ac.jp/cgi-bin/fund/bin/xRegist.cgi>) の寄附申し込みフォームから申込をお願いします。

北大フロンティア基金に関する問い合わせ 基金事務室 (北海道大学 百年記念会館内・学内電話 2017)

(総務企画部広報課)

平成30年度北海道大学入試説明会を実施

7月20日（金）、学術交流会館において、高等学校等の進路指導担当教諭を主な対象とした入試説明会を開催し、高等学校等99団体から148名の参加がありました。

説明会では長谷川晃理事・副学長（アドミッションセンター長）から挨拶と本学の現状についての説明があった後、藤田 修アドミッションセンター

副センター長より平成30年度入試結果の概要について説明を行いました。

その後、質疑応答が行われ、さらに説明会の一環としてアドミッションセンター教職員による個別相談会が実施されました。

（アドミッションセンター）



長谷川理事・副学長による説明

清華大学・北海道とフォーラムを共催

7月26日（木）、清華大学の顧 秉林（コ・ヘイリン）前学長一行及び同大学学生訪問団が本学を訪問しました。

清華大学は中華人民共和国の歴代指導者をはじめ、世界で活躍する国際人材を輩出している名門大学です。本学とは2008年に大学間交流協定を締結しており、活発な交流を重ねてきました。

今回、北海道命名150年、日中平和友好条約締結40周年を記念し、北海道大学・清華大学・北海道の共催で「美しい農村・豊かな生活・生命（いのち）」をテーマとするフォーラムを本学学術交流会館で開催しました。「美しい農村」構想は習 近平中国国家主席が提唱するものです。本フォーラムでは、この構想における中国が目指す農村振興のあり方を紹介していただくと共に、道内の農村振興のために取り組んでいるキープレイヤー達を招き、

それぞれの取り組み状況について情報を共有することで、今後の農村のあるべき姿について参加者と共に考えることを目的としており、当日は134人が参加しました。

本フォーラムには清華大学の顧前学長をはじめとする関係者が本学を訪れました。冒頭では辻 泰宏北海道副知事、清華大学顧前学長に続き、本学名和豊春総長が挨拶をしました。挨拶では、これまでの本学と清華大学の交流の歴史を紹介するとともに、本学が国内外の産学官との連携を推進し、組織の垣根を越え、産業の育成や施策に貢献して行くことの意義について述べました。

また、フォーラム第一部では本学農学研究院柳村俊介教授からも北海道農村の特徴と将来に向けた課題についての発表がありました。

同日、同じく学術交流会館において、清華大学と本学の学生交流が行わ

れました。清華大学の学生60名は、7月22日（日）より「日中植林・植樹国際連帯事業」の一環で日本を訪れており、東京及び札幌での植樹・環境関連の研修の後、北海道大学を訪れました。

学生交流会では、最初に国際連携機構の川野辺創国際連携機構副機構長が、本学の概要について説明しました。その後、清華大学の学生による高胡、二胡などの中国伝統楽器の演奏が行われ、参加者は美しい音色を楽しみました。本学からは、サークル「縁」がエネルギーなよさこいソーランの踊りを披露し、会場は大いに盛り上がりました。

今回の来訪を機に、今後清華大学と本学の交流がますます活発になることが期待されます。

（国際部国際連携課）



フォーラムで挨拶する名和総長



清華大学の学生による演奏



北海道大学の学生によるよさこいソーラン

忠北大学校尹 汝杓（ユン・ヨピョ） 総長に北海道大学名誉博士を授与

7月5日（木）、北海道大学工学部オープンホールにおいて、忠北大学校（韓国）の尹 汝杓（ユン・ヨピョ）総長に対する名誉学位記授与式及び記念講演会が執り行われました。これは、尹総長が、国際文化交流その他の活動を通じ、本学の教育・研究の進展に寄与した功績が特に顕著であるため、北海道大学名誉博士の授与を決定したことによるものです。

尹総長は、心血管疾患薬物の開発をはじめとする薬学研究で独創的研究業績を挙げられてきました。その成果は国内外で高く評価され、160報を超える国際学術誌に掲載されるとともに、科学技術優秀論文賞（韓国科学技術団体総連合会）や黄鳥謹呈勳章（大韓民国）などを受賞されました。また、忠北大学校総長として、忠北大学校の真理・正義・開拓の建学理念を基に革新的な教育と研究体制を整備された結果、忠北大学校は、大学構造改革評価における最優秀A等級、国公立大学清廉度測定における拠点国立大学1位、韓国学生満足度1位の大学に選ばれる等、様々な指標で高く評価されています。

尹総長と本学の関係は、2014年8月に尹総長が本学を初めて訪問されて以降深められてきました。尹総長の提案により、その後両大学間での工学系を中心とした学術シンポジウムの定期的な開催やインターンシップ学生の相互派遣などの学生交流などが活発に行わ

れています。2016年、2018年には再度忠北大学の代表団が本学を訪問し、より具体的かつ実践的な協力案について議論を行っています。

当日は約200名の学生及び教職員が出席しました。同日午前中に行われた本学と忠北大学校による工学系シンポジウムの関係者が多数参加した他、学生が出席者の半数以上を占めました。韓国に縁のある学生のみならず、様々な地域出身の留学生がこの貴重なセレモニーに参加しました。

名和豊春総長からの学位記授与に引き続き、尹総長による記念講演会が行われました。“Leadership Based on Mutual Communication and Co-

existence in the Global Era: Dreaming of an Orchestra Maestro!”（地球村時代、相互コミュニケーションと共存のリーダーシップ：オーケストラの名指揮者を夢見て）と題した講演会では、自身の人生哲学、キャリア形成や、大学運営に対するリーダーの在り方、韓国の文化や教育についての考え方など、幅広いテーマについて分かりやすくお話しいただき、参加者は熱心に聴き入っていました。

今回の授与により、本学の名誉学位被授与者は42人となりました。

（国際部国際連携課）



名和総長（右）と尹総長（左）



挨拶する尹総長



記念講演会の様子



講演する尹総長（演台左）

平成30年度北海道大学新渡戸賞授与式を挙



受賞者記念撮影



賞状の授与

7月10日（火）、高等教育推進機構大会議室において、平成30年度北海道大学新渡戸賞授与式を挙し、13名の学生が受賞しました。

新渡戸賞は優秀な学部生の育成を目的として平成17年度に設けられた制度で、1年次における学業成績が特に優秀で、かつ人格に優れ、他の学生の模範となる2年次生に対して、奨励金が給付されます。

授与式には12名が出席し、長谷川晃理事・副学長、河本雅弘学務部長列席

のもと、長谷川理事・副学長から賞状が授与されました。

続いて長谷川理事・副学長から挨拶があり、新渡戸稲造博士の業績についての話と共に「今回の受賞を契機に、皆さんには自らの教養を積極的に深め、これからも大学生活をより有意義なものとし、世界に羽ばたく人間へと成長していただきたい」と激励の言葉を贈りました。

（学務部学生支援課）

受賞者

文学部	大谷 梨乃
教育学部	小林 慧
法学部	梅田 稜太郎
経済学部	三上 苑子
理学部	山田 裕也
工学部	山本 潤
農学部	米村 京子
獣医学部	植條 有紀
水産学部	東坂 和樹
医学部（医）	尾谷 雪花
医学部（保健）	山下 愛
歯学部	越石 麟
薬学部	宮上 祐里佳

平成30年度「ホリデーイン日高」を開催



集合写真

7月7日（土）、8日（日）の2日間、日高町にて、「ホリデーイン日高」を開催しました。この事業は、留学生の異文化交流を目的として、また平成23年度からは、青木麻衣子准教授が担当している一般教育演習（フレッシュマンセミナー）『『国際交流』を実践する』と連動して、学務部学生支援課（旧国際部国際教務課）と国立日高青少年自然の家との共催で毎年開催しており、27回目となる今年は、11ヶ国23名の外国人留学生と、12名の日本人学生が参加しました。

1日目は日本人学生が企画した、アイヌに関するクイズ等のオリエンテーションに参加した後、昼食には、鹿の焼肉、オオウバユリやイナキビの団子など、アイヌ民族の料理がふんだんに盛り込まれた弁当を食べました。午後からは平取町立二風谷アイヌ文化博物館で、日本語、英語の両方で説明を受けながら、アイヌの民具について見学しました。夕方からは国立日高青少年自然の家へ移動し、アイヌの早口言葉や歌、アイヌ舞踊を体験しました。参加者は説明に真剣に耳を傾け、最後に

は一緒に踊り出すなど、大いに盛り上がりました。そして、夜には、敷地内のグリーンホールで、グループ毎に分かれてバーベキューを食べ、グループ内の親交を深めていました。

2日目は午前中に、アイヌの伝統的な文様を学んだうえで、コースターの木彫り体験を行いました。参加者はウロコ彫りという彫り方に苦戦しながらも、最後は思い思いのコースターを完成させていました。その後、野草であるイタドリを切り出した笛を作りました。午後には、各グループで2日間の活動のまとめを行った後、そのまとめについて発表し、イベントは終了しました。

参加者は、2日間を通じて、留学生と日本人からなる合計6グループに分かれてプログラムを体験することで、アイヌ文化について理解を深めるとともに、参加者間でも交流を深めていました。

（学務部学生支援課）



コースターづくりの様子



バーベキューの様子

平成30年度北海道大学公開講座 「去る時代、来たる時代を考える」が終了

7月2日（月）から23日（月）まで、本年度の公開講座（全学企画）を開催しました。

改元を来年に控え、ひとつの時代の終わりと新しい時代の幕開きを前に、今回の公開講座は「去る時代、来たる時代を考える」を共通のテーマとして開催しました。公開講座実施部会（部会長：武田 定理学研究院教授）において全学から選ばれた8名の講師が、それぞれの専門分野からこの共通テ

マを受け止める形で講義を行いました。

講義では、最新の研究や実務の動向の紹介を通して、平成の30年がいかになる時代であったか、来たるべき時代をどのように展望するかが、多角的に取り上げられました。こうした学びの機会は本学の全学企画だからこそ提供できるものであり、本年度も多くの受講者から、講義内容の幅広さと深さ、講師の分かりやすい説明に高い評価が

寄せられました。また、各回の講義後の質疑の時間には、終了時刻間際まで数多くの熱心な発言があり、受講者の方々の意欲の高さを感じられました。

最終回の講義終了後には閉講式が行われ、全8回中6回以上出席した100名の受講者に修了証書が授与されました。

（学務部学務企画課）

各回の講義題目と講師

- 第1回「新概念コンピューティングとは？」（電子科学研究所 教授 小松崎 民樹）
- 第2回「日本流通史にとっての「平成」－商店街に注目して－
（経済学研究院 准教授 満蘭 勇）
- 第3回「昭和史と平成史－後世の史家は何を思うのか－
（文学研究科 教授 白木沢 旭兎）
- 第4回「世界的課題解決に貢献する国立大学の使命－北海道大学の挑戦－
（北海道大学総長 名和 豊春）
- 第5回「中国の改革・開放40年と習近平体制の行方」
（メディア・コミュニケーション研究院 教授 藤野 彰）
- 第6回「移民、民族、アイデンティティ：多文化共生は可能なのか？」
（公共政策学連携研究部 講師 池 炫周 直美）
- 第7回「人生90年時代に自分らしく生きることを目指す」
（保健科学研究院 教授 村田 和香）
- 第8回「人工知能がもたらす未来」（情報科学研究科 教授 川村 秀憲）



受講風景

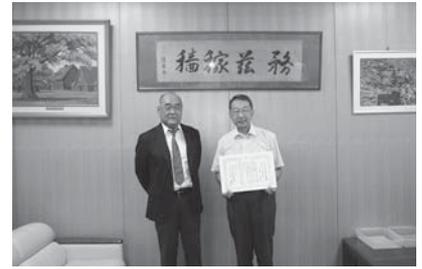
平成30年度「ひらめき☆ときめきサイエンス推進賞」を 北方生物圏フィールド科学センターの荒木教授が受賞

7月2日（月）、北方生物圏フィールド科学センターの荒木 肇教授が、（独）日本学術振興会から「平成30年度ひらめき☆ときめきサイエンス推進賞」を授与されました。

「ひらめき☆ときめきサイエンス～ようこそ大学の研究室へ～KAKENHI」は、科学研究費助成事業による研究成果を、小・中学生や高校生に体験・実験・講演を通じて分かりやすく紹介する（独）日本学術振興会の事業です。

「ひらめき☆ときめきサイエンス推進賞」は、継続的にプログラムを実施し、我が国の将来を担う子どもたちの科学する心を育み知的好奇心の向上に大きく貢献した研究者に授与されるもので、今年度はこれまでに実施代表者としてプログラムを5回以上実施したことのある研究者が対象となりました。

（研究推進部研究振興企画課）



左から佐藤北方生物圏フィールド科学センター長、荒木教授

札幌キャンパスで特定外来生物防除を実施

7月18日（水）、札幌キャンパスにて、通算10回目となる特定外来生物防除を実施し、教職員40名、大学院生1名及び札幌市職員2名の計43名が参加しました。

今回の防除は、従来の遺跡保存庭園内から大野池、花木園及び環境科学研究院北側周辺に場所を変更して実施しました。

当日は、午前10時に施設保全センター前に集合し、始めに、サステイナブルキャンパスマネジメント本部生態環境マネジメントワーキンググループ長である愛甲哲也農学研究院准教授から挨拶があり、続いて、露崎史朗地球

環境科学研究院教授から、特定外来生物であるオオハンゴンソウ及びドクニンジンの見分け方の説明がありました。作業は2班に分けて実施され、猛暑の中の作業となったものの、約2時間の作業で、オオハンゴンソウ約

12m³及びドクニンジン約2m³の約14m³を防除することができました。

これら防除した結果は、年末に環境省へ報告します。

（施設部環境配慮促進課）



防除前の愛甲准教授挨拶



大野池周辺防除班メンバー



花木園オオハンゴンソウ防除状況



環境科学研究院北側周辺防除メンバー



中央食堂東側でのオオハンゴンソウ防除状況

「第3回 北海道大学フィンランドデイ みんなで夏至祭を楽しもう！」を開催

夏至祭を祝って毎年開催しているフィンランドデイは、今年第3回目を迎え、6月30日（土）、本学欧州ヘルシンキオフィスの主催（北海道フィンランド協会ほか共催、駐日フィンランド大使館、在札幌フィンランド名誉領事館、札幌国際プラザの後援）により、農学部大講堂において、約180名の来場者を迎えて盛大に開催しました。

欧州ヘルシンキオフィス田畑伸一郎所長（スラブ・ユーラシア研究センター教授）の開会宣言の後、第1部ではまず、ムーミン物語を教材に授業を实践されている高等教育推進機構の池田文人准教授が「ムーミン谷からのメッセージ」と題して講演を行いました。続いて、フィンランドから帰国したばかりの文学研究科の高尾 渉さん、伊藤慶彦さんにヘルシンキ大学での留学経験談を、国土交通省北海道開発局農業整備課松岡宗太郎課長補佐

（前在フィンランド日本国大使館一等書記官）に、自身の3年間のフィンランド滞在における様々な経験と分析に基づく講演をいただきました。

続く第2部では、保健科学研究院の横澤宏一教授の司会のもと、「伝統楽器カンテレと歌で綴るフィンランドの風景」と題し、あらひろこさんとサルミアッキ（札幌カンテレクラブ）の皆さんが、フィンランドの民族音楽を披露しました。カンテレの澄んだ音色と歌声が来場者を魅了し、大きな拍手が寄せられました。続いて現代日本学プログラム課程で学ぶシリヤ・イヤスさん、ユッシ・ヌルミさんが「サウナと古代信仰」、ネッタ・ホンギストさん、ミア・ティッコネンさんが「日本におけるフィンランドのイメージ」と題して講演を行いました。登壇者はそれぞれの視点でフィンランドを分析した講演を行い、来場者にはフィンランドについてより深く理解し、いっそう

関心を高めていただける機会となりました。閉会後の懇親会においては、お互いの親睦を深め、活発な情報交換が行われました。

開催にあたり、附属図書館では、会場でのパネル展示の写真等貸出や北図書館での関連図書展示を、本学の学生団体である北大カフェプロジェクトには開場前と休憩時間にフィンランドで一般的な浅焙煎のコーヒー等ドリンクの提供を、そして北海道大学新聞による取材など、皆さまから様々なご協力をいただきました。

盛況となった本会は、すでに来年の開催を期待する声も上がっており、多くのフィンランドファンに楽しんでいただき、また仲間を繋いでいく機会として、ぜひとも引き続き開催していきたいと考えています。

（国際部国際連携課）



田畑所長による開会挨拶



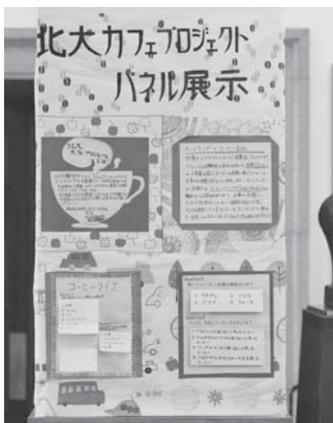
来場者で一杯の会場



あらさんとサルミアッキによる演奏



ホンギストさんとティッコネンさんの講演



北大カフェプロジェクトのカフェコーナー



「BIO tech 2018アカデミックフォーラム」に出展

産学・地域協働推進機構産学推進本部は、6月27日（水）～6月29日（金）に東京ビッグサイトにおいて開催された「BIO tech 2018アカデミックフォーラム」に出展しました。

遺伝子病制御研究所免疫機能学分野北村秀光准教授の「血清マイクロRNAの免疫体質評価マーカーとしての応用」について、ポスター展示及びプレゼンテーションを実施しました。

本イベントには、3日間を通して約4万7千人が来場しました。ポスター展示では、来場者と約60枚の名刺交換が行われ、プレゼンテーションでは約50人が聴講し、立ち見も出るほど盛況となりました。また、約20社の企業とパートナーリング（企業との個別面談）

を実施しました。現在、いくつかの企業と事業化に向けて、特許に関する秘密保持契約やライセンス等の契約準備を進めており、大変実り多いイベントとなりました。

産学・地域協働推進機構では、今後も民間企業等とのマッチング及びパートナーリングの機会を設け、産学連携を

推進していきます。

（産学・地域協働推進機構）



プレゼンテーション会場の様子



ポスター展示にて説明する北村准教授

国際連携研究教育局（GI-CoRE）人獣共通感染症グローバルステーションが第6回人獣共通感染症克服のためのコンソーシアム会議を開催

平成26年4月に、GI-CoREが設置されて以来、人獣共通感染症グローバルステーションでは、メルボルン大学、アイルランド国立大学ダブリン校、アブドラ国王科学技術大学および北海道大学でコンソーシアムを形成し、人獣共通感染症の克服に向けた研究と教育を推進しています。

7月19日（木）・20日（金）に獣医学研究院において、第6回人獣共通感染症克服のためのコンソーシアム会議（The 6th Meeting of the Consortium for the Control of Zoonoses）を開催しました。19日（木）の会議は、本学教員5名が研究課題の進捗状況と今後の研究計画を口頭発表しました。20日（金）は、笠原正典理事・副学長、Ronald Green在札幌オーストラリア領事の挨拶のほか、メルボルン大学のDavid C. Jackson教授、Lorena E. Brown教授、Elizabeth L. Hartland教授、アイルランド国立大学ダブリン校のWilliam W. Hall教授、Stephen V. Gordon

教授、Michael Carr助教、アブドラ国王科学技術大学のArnab Pain教授及び本学の喜田 宏ユニバーシティプロフェッサー、杉本千尋名誉教授、澤洋文教授、山岸潤也准教授が、GI-CoREプロジェクトで実施した5年間の集大成である研究成果を発表しました。

本会議は公開シンポジウムとして開催され、発表者を含む教職員、学生、学外者のべ191名が参加して、活発な質疑応答が行われました。また、同時に開催したGI-CoRE人獣共通感染症グローバルステーション外部評価委員会として、国際医療福祉大学塩谷病院の

倉田 毅教授、米国セント・ジュード小児研究病院のRobert G. Webster教授とオーストラリアモナシュ大学のBen Adler教授が人獣共通感染症リサーチセンターを訪問し、本グローバルステーションの研究・教育活動について評価を実施しました。

本会議を通じて、人獣共通感染症の克服を目指した基礎・応用・臨床研究の持続的な推進、4大学間でのさらなる国際連携強化を目指すことを再確認する有意義な機会となりました。

（国際連携研究教育局）



シンポジウムの様子



集合写真

■ 部局ニュース

獣医学研究院・獣医学部が札幌市動物管理センターと連携協定を締結

獣医学研究院・獣医学部は、8月9日（木）、札幌市動物管理センターと動物に関する教育研究活動の拡充及び動物の福祉推進等に向けた連携協定を締結しました。

本研究院・学部では、これまで同センター職員による動物愛護・福祉及び公衆衛生に関する講義等の実施並びに同センターへの学部学生の受け入れ等により連携を図ってきましたが、さらなる連携強化を目的として、本協定を締結する運びとなりました。また、同センターにとっては、初の大学との連携協定締結となりました。

同日に行われた協定締結式では、出

席した堀内基広獣医学研究院長・獣医学部長及び矢野公一札幌市保健福祉局医務監から、全国的にも数少ない大学と行政との連携による動物福祉等に係

る情報発信や啓発を通じた社会貢献への抱負と期待が述べられました。

（獣医学研究院・獣医学部）



協定書への調印の様子



握手する堀内獣医学研究院長・獣医学部長（中央左）と矢野札幌市保健福祉局医務監（中央右）

薬学研究院・薬学部及び生命科学院が英国・オックスフォード大学と部局間交流協定を締結

薬学研究院・薬学部及び生命科学院は、7月16日（月）に、オックスフォード大学との部局間交流協定を締結しました。オックスフォード大学グリーンカレッジで執り行われた調印式には、オックスフォード大学からChristopher Conlon学部長はじめ6名が、本学からは名和豊春総長と前仲勝実薬学研究院教授をはじめ5名が出席しました。

これまでに薬学研究院では、HIV感染制御を目指したオックスフォード大学との国際共同研究プロジェクトで日本学術振興会の「頭脳循環を加速する戦略的国際研究ネットワーク推進プログラム」に採択され、本学若手教員を複数名派遣するなどの交流実績があり

ます。今回、さらにより広範囲な研究交流やサマー・インスティテュートなどを通じた学生交流を活発に行うために、新たに部局間交流協定を締結したものです。

この交流協定締結に基づき、今後、

両部局間において様々な分野での交流が活発に行われることが期待されます。

（薬学研究院・薬学部、生命科学院）



協定書を手にする名和総長（左）、Conlon学部長（中央）と前仲薬学研究院創業科学研究教育センター長（右）



調印式後の記念写真

低温科学研究所が揚州大学生命科学及び技術学院と 部局間交流協定を締結

低温科学研究所は、7月19日（木）に揚州大学生命科学及び技術学院と部局間交流協定を締結しました。調印式は揚州大学生命科学及び技術学院会議室で執り行われ、同学院から潘志明学院長ら5名、本研究所から福井学所長ら4名が出席しました。

揚州大学は、1992年に6大学の統合により28の学院が設置された江蘇省の重点総合大学です。今回の協定については、同学院国際部門の胡学運副部長と本研究所の田中亮一准教授による研究交流を契機として取り交わされました。

調印式の後は、田中准教授による講演に続き、互いの研究状況に関する活発な意見交換が行われました。今後、両機関の間で共同研究活動の推進

等、積極的な交流連携が期待されます。

（低温科学研究所）



協定書に署名する福井所長(右)と潘学院長(左)



調印式における関係者集合写真

法学研究科、公共政策学連携研究部でFD研修を開催

7月12日（木）、人文・社会科学総合教育研究棟会議室において、法学研究科の主催で、公共政策学連携研究部と合同でFD研修を開催しました。

今回は、「現代の学生理解～学生相談室から見る学生の悩み～」をテーマに、学生相談室で副室長を務める齋藤暢一郎講師により講演が行われ、最近の学生はどんなことに悩むのかを考え、一人一人に合った対応の視点を身につけることを目標に、悩みや問題を抱える学生の早期発見と支援の必要性を分かりやすく解説いただきました。

参加した54名の教職員は熱心に講演に聴き入り、多様化する学生に授業内外で対応する際、教職員が理解しておくべきことを再認識することができ、

今後の教育・研究活動に役立つ大変有意義なFD研修となりました。

（法学研究科・公共政策学連携研究部）



講演する齋藤講師



会場の様子

経済学院・会計専門職大学院で公認会計士制度説明会を開催

経済学院・会計専門職大学院では、日本公認会計士協会北海道会の協力を得て、7月12日（木）に、文系共同講義棟2教室において、公認会計士制度説明会を開催しました。

この説明会では、経済学部ばかりではなく、広く本学の学生に公認会計士制度についての理解を深めてもらうとともに、公認会計士の資格取得を目指す学生には、受験に当たっての具体的な指針を提供することを目的として、公認会計士の業務や公認会計士試験などについて説明しています。

説明会は、日本公認会計士協会北海道会の広報委員長の池田裕一氏の司会進行で始まり、まず、同会会長の富樫正浩氏が説明会の趣旨について解説されました。そして、蟹江 章会計専門

職大学院長が挨拶を行った後に、公認会計士の業務を簡潔にまとめたDVD動画が上映されました。

続いて、同会準会員の布施 晶氏が、公認会計士試験の状況や監査法人の採用状況についての説明と受験勉強や監査業務における本人の体験談を紹介しました。

また、公認会計士の長谷川琢人氏か

らは、公認会計士の業務ならびに監査法人における監査等の実務経験についてお話しいただきました。

その後、質疑応答が行われ、参加した学生にとって公認会計士制度を深く理解するためのよい機会となりました。

（経済学院）



説明会の様子

第11回日本数学会季期研究所及び市民講演会を開催

7月2日（月）から7月13日（金）にかけて、日本数学会が主催する第11回日本数学会季期研究所が北海道大学札幌キャンパス内で実施されました（組織委員長：久保英夫（理学研究院数学部門教授））。この季期研究所は、毎年、日本数学会がテーマを選び、そのテーマに関する世界的に著名な研究者を招へいし、仮想的な研究所を立上げ、我が国の大学院生やポスドクを含む研究者との交流を促進し、当該分野の今後の発展につなげることを目的と

して開催されるものです。今年度は、空間の曲がり具合が微分方程式の解の挙動にどのような影響を与えるかを調べることをテーマとして設定し、ブラックホールの安定性や相分離の数理などについて議論されました。

午前中は、連続講演によるチュートリアル的な内容が提供され、午後は二つのセッションに分かれて、より専門化された内容について検討が進められました。10か国以上の国々から150名以上の参加者があり、盛況のうちに終

了しました。加えて、7月7日（土）には本季期研究所開催にあわせて、数学部門による市民講演会が企画され、数学者の持つ問題解決のためのデザイン力について広く意見交換を行いました。こちらも80名以上の参加者があり、数学の重要性が改めて社会に認識される機会となりました。

（理学院・理学研究院）



第一週目集合写真



第二週目集合写真

薬学部で第21回生涯教育特別講座夏季講演会を開催

7月12日（木）、薬学部臨床薬学講義室において生涯教育特別講座・夏季講演会を開催し、薬局や病院などの薬剤師の方々をはじめ、薬学部学生や教員等80名が参加しました。

薬学部生涯教育特別講座は、本学薬学部同窓生を含む医療関係及び関連領域の仕事に従事される方を対象に、医療における諸問題について最新の情報を提供することを目的として実施しています。

今回は、北海道大学病院消化器内科助教の桂田武彦先生に「炎症性腸疾患

の治療～治療指針から実臨床まで～」のタイトルで講演いただきました。

講演では、主要な炎症性腸疾患である潰瘍性大腸炎とクローン病それぞれについて、症状や所見とそれに対する薬物治療から外科治療に至るまで、実際の症例を示し、写真を交えながら大変分かりやすく解説していただきました。会場からは様々な質問が寄せられ、活発な議論が行われました。「両疾患の基本的病態を再度理解することができ、かつ、現在の治療薬などを知ることができました」「普段消化器の

病棟で勤務しているの、今回の内容を参考にしたいです」など多くの意見が寄せられました。

（薬学部）



講師の桂田先生

平成30年度薬学研究院FD講演会を開催

7月3日（火）、臨床薬学講義室において、平成30年度の薬学研究院FD講演会を開催しました。高等教育推進機構高等教育研修センター特任准教授の山本堅一先生を招いて、ルーブリック評価入門について講義と演習が行われました。

ルーブリックとは、学習到達度を示す評価基準を観点と尺度からなる表として示したもので、パフォーマンス課題を評価するために用いられます。

講演会では、ルーブリック表は、パフォーマンス課題を評価する一つ以上の観点、その特徴を例示する記述である評価基準、評定段階を表す区分である尺度、パフォーマンス課題を定義する課題からなること、ルーブリックによる評価では、様々な観点から学習者を評価できるため、従来の評価方法で

は難しいようなパフォーマンス課題（知識だけでなく様々なスキルや思考力、問題解決能力等を総合し、活用することを求めるような複雑な課題）も評価できることなどを説明いただきました。

講義終了後には、参加者がルーブリック表を自ら作成することにより、ルーブリック評価法についてより理解を深めることができました。

終了後のアンケートでは、「ルーブリック評価について初めて知ることができて良かった」という意見や、「今回のようなパソコンを持ち込んだ演習形式も具体的で良い」という意見もみられ、有意義なFD講演会となりました。

（薬学研究院）



講師の山本先生



講師の説明を熱心に聞く参加者

工学系部局で「第1回こころの健康セミナー」を開催

工学研究院，情報科学研究科，量子集積エレクトロニクス研究センターでは、「工学系部局なんでも相談室」による主催行事として，年2回「こころの健康セミナー」を開催しています。

7月6日（金），工学研究院B31講義室において，工学系部局なんでも相談室カウンセラーである石原一人氏（合同会社メンタルアシスト北海道・職業カウンセラー）による本年度第1回目の「こころの健康セミナー」を開催しました。

本セミナーでは、「トラウマについて

—そのメカニズムと対処を考える—と題して，トラウマのメカニズムと対処法を学びその理解・認識を深める講演に22名の学生及び教職員が参加しました。

終了後のアンケートでは，「今，トラウマと向き合っているので今日のセミナーが聞いてよかった」，「セミナーの内容が今後の生活に役立つと思う」，「こころの健康に関心が深まった」等の感想が多く寄せられました。

工学系部局では，今後も学生及び教職員向けに「こころの健康セミナー」

を開催する予定です。

（工学研究院，情報科学研究科，量子集積エレクトロニクス研究センター）



講演する石原カウンセラー

農学研究院で平成30年度第1回FD研修会を開催

農学研究院では，平成30年度第1回FD研修会を「現代の学生理解～学生相談室から見る学生の悩みとその支援」と題して7月27日（金）に農学部大講堂において開催し，教員65名，事務職員3名の計68名が受講しました。

農学研究院の西邑隆徳副研究院長による開会の挨拶の後，保健センター／学生相談室の齋藤暢一朗先生から最近の学生はどのような悩みや問題を抱えているのか，またそうした問題が深刻化しないよう教職員はどのような予防対応をとるべきなのかについて講演いただきました。最近の学生は自己への満足感が低く，そのため満足感を高めるために人とのつながりや承認を求める気持ちが強いが，その一方で他者との関わりに苦手意識も持っている，そうした葛藤の中で心身の不調を来し

やすい，など単純な悩みとしては片付けにくい問題を抱えていることを説明いただきました。また，そのような学生は相談する相手も持ちにくく問題が深刻化しやすいため，そうなる前にそのサインに気づくことが重要であり，そのようなサインとはどのようなものか，そして最初にできる予防対応，特に言葉のかけ方について具体的なアドバイスをいただきました。さらに，学内外にある相談体制の利用を学生に勧める場合の注意点についてもいくつかご指摘いただきました。

学生を取り巻く環境が変化する中で学生が抱える問題も多様化し，昔ではあまり考えられなかった悩みをもつ学生が増えています。心身の不調を抱えた学生を支援するためには，まずいち早くその兆候に気づくこと，そのため

には学生一人一人の状況をよく理解し，その学生に合った支援の仕方を考えていかねばなりません。これは簡単なことではありませんので，支援の仕方に迷ったら支援する側も関係機関に相談することをためらうべきではないと学びました。

研修会の最後には，参加者から学生の問題に気付いた際の具体的な対応についていくつか質問が寄せられ，どこまで踏み込んでよいのか，また保健センターや学生相談室にどのような形で支援を仰いだらよいのかアドバイスをいただきました。

講演いただいた齋藤先生には，暑い中にも関わらず熱のこもったお話をいただき改めて感謝申し上げます。

（農学研究院）



西邑副研究院長の挨拶



講師の齋藤先生



研修会の様子

ミュージアム学芸員リカレント教育プログラム開始～公開シンポジウムの開催

7月22日（日）、文化庁からの事業支援を受け、「大学における文化芸術推進事業」の一つとして、「ミュージアム学芸員リカレント教育プログラム」（略称：学芸リカプロ）が本学ではじまりました。

文学部では、総合博物館、アイヌ・先住民研究センターなどの学内組織との協力体制の下、学芸員養成課程を担当しています。文学部だけでなく、水産学部、理学部の学生を中心に毎年50～60名ほどが学芸員資格を取得し、この5年間で40名ほどの卒業生が博物館、美術館、水族館、動植物園などに就職しました。また、来年度設置される予定の大学院文学院（仮称）には「博物館学研究室」が新設されます。このプログラムはそのような学芸員教育の延長上にあります。

ミュージアムや学芸員とは何かという不断の問いかけと、ミュージアムの可能性を開き続けようとする姿勢を大切に、現役の学芸員とともに、このことを探り求める場をこのプログラムと位置付けました。本プログラムへは、現役の学芸員を中心に多くの方々

から応募があり、定員20名を超える32名が受講生となりました。

プログラムは今年度から3年間の計画で進みます。1年目はミュージアムにおける企画展制作立案時の考え方とスキルを「講義」などを通して学び、2年目以降は徐々に実践的な活動を加え、最終の2020年度には、本学総合博物館で企画展を開催するなど、いくつかの具体的な成果を広く発表します。

当日は、開講記念の公開シンポジウム「いまこそ〈企画力〉」を開催しました。はじめに、西井準治理事・副学長より開会の挨拶をいただき、その後、4名のパネリストからご報告がありました。東京ステーションギャラリーの富田 章館長からは、同館の極めて特異な立地と設置条件により生み出されたユニークな経営戦略を、毎日新聞東京本社美術事業部長である高市純行氏からは、全国の大型巡回展などを毎年何本も手掛けている経験から、展覧会がヒットする条件やそれを支える理想の学芸員像を語っていただきました。また、東京都歴史文化財団事務局企画担当課長の佐々木秀彦氏から

は、東京都美術館「とびらプロジェクト」を事例に学芸員の役割の拡張について、最後に公益財団法人有斐斎弘道館館長の濱崎加奈子氏からは、「美に学ぶ〈場〉の再興を通してー京都・有斐斎弘道館の挑戦ー」と題して、美術館ではない施設のさまざまな活動とそのミッションについて紹介いただきました。

後半のパネル・ディスカッションでは、佐々木亨文学研究科教授の司会進行で、展示制作にまつわるミュージアム内の「価値連鎖」や学芸員に求められる資質について、及びミュージアムが持つ本質的価値以外の価値である「社会的・経済的価値」について議論し、最後に山本文彦文学研究科長より閉会の挨拶がありました。

なお、富田氏・高市氏・濱崎氏には、翌日から始まった受講者向けの「講義1 企画展立案：事例研究」の講師としても登壇いただきました。

（文学部）



西井理事の挨拶



富田氏の講演



高市氏の講演



佐々木秀彦氏の講演



濱崎氏の講演



パネル・ディスカッション

スラブ・ユーラシア研究センター夏期国際シンポジウム 「移りゆく北極域と先住民社会——土地・水・氷」 開催

スラブ・ユーラシア研究センターでは、7月5日と6日の二日にわたり、夏期国際シンポジウム「移りゆく北極域と先住民社会——土地・水・氷」On Land, Water and Ice: Indigenous Societies and the Changing Arcticを開催しました。文部科学省の補助事業である北極域研究推進プロジェクト(ArCS)と当研究センターの合同による主催で開催した本シンポジウムは、本学北極域研究センターおよびアイヌ・先住民研究センター、東北大学東北アジア研究センター、ドイツ歴史研究所(モスクワ)の共催によって実現されました。

近年北極地域では、地球温暖化による環境の変化が著しく、また資源開発に伴う環境と社会の変化が急速に進んでいます。特に、自然環境と関わりの深い生業を営む先住民にとって、こうした事態はより深刻です。今回のシンポジウムでは、北極域の先住民が今日直面している様々な変化を主題として、初日に基調講演が行われ、続いてテーマごとに五つのセッションで報告が行われました。

各セッションのテーマとしては、1. シベリア先住民の暮らしとネットワーク、2. 現代グリーンランド社会の現状と将来、3. アラスカ先住民の生活様式といった、地域ごとに区分さ

れる三つのセッションの他に、4. 北極のガバナンスと知識、5. 極域沿岸の歴史といった、より広義のテーマを掲げる二つのセッションが続きました。各セッションで三本ずつ報告があり、基調講演と合わせると、全体で十七本の報告が行われたこととなります。そのうち三本は、それぞれシベリア、グリーンランド、アラスカの先住民を代表する研究者ないし活動家による報告でした。分野としては、文化人類学的なアプローチがもっとも多く、ついで歴史学、地理学、考古学、政策研究があげられます。シンポジウム翌日の7月7日には、海外からの参加者を中心として、平取町立二風谷アイヌ文化博物館で巡見が行われました。

一般に、比較的規模の大きなシンポジウムでは、それぞれの報告は第一級でも、全体としてまとまりが見えにくいということがありがちです。しかし本シンポジウムでは、個々の報告がセッションの垣根を越えて、他の報告グループと密接な関連性を持つケースが多く認められました。

例えば、ほぼすべてのセッションで、直接・間接に漁業の問題が論じられ、先住民の生活において重要な位置を占める漁撈活動が、国家や商社による営利目的の漁業体制に組み込まれていく様子が明るみに出されました。ま

た、鉄道や道路、北極海航路といった、インフラ整備をとまなうロジスティクスの問題が、先住民の生活にどのような影響を及ぼすかという問題についても、複数のセッションで議論されました。その他にも、周囲の気候や環境の特徴を生かした狩猟文化のあり方や、国家による地方統治と先住民の生存をめぐる問題といったテーマも、セッションをまたいで参加者に共通の関心を引き起こしました。

こうした議論の中で浮かびあがってきたのは、単に気候変動の影響だけでなく、国家の枠組みや世界経済の動向、欧米基準の拡大といった、様々な要因による力を受けて翻弄される、極北の先住民たちの姿です。しかしその一方で、伝統的な言語文化の保存プロジェクトを始動する先住民自身の試みや、日常生活において既存の資源を巧みに利用する戦略的指向を紹介する報告では、変化の時代を生き抜く先住民のしたたかさが示されました。

二日間で90名にのぼる本シンポジウムの参加者は、各セッションの議論が組織者の意図をはるかに超えて、互いに有機的なつながりを伸ばしながら、深化していく場面に遭遇することになりました。

(スラブ・ユーラシア研究センター)



ディスカッションの様子



アラスカ先住民による言語文化保存プロジェクトの報告



二風谷巡見、旧マンロー邸前にて

メディア・コミュニケーション研究院公開講座「世界の言語と文化」が終了

メディア・コミュニケーション研究院では、平成30年度公開講座「世界の言語と文化」を、6月7日から6月28日まで毎週木曜日、全4回にわたり実施しました。

本講座は、世界の言語と文化から、社会の多様性について考えるもので、ヨーロッパ、中国、東南アジア、南米における事例から世界の言語と文化の状況が報告されました。宗教と言語、そして言語の境界と国境は一致せず、

ひとつの国でも多数の公用語が存在する事例などを改めて考察したことで、受講生からは、そうなった歴史的過程をより深く知りたい、アフリカなどの他の地域はどうなのか知りたい等の希望が寄せられました。

最終日には受講生が修了証書を受け取り、本講座は盛況のうちに無事に終わることができました。

(メディア・コミュニケーション研究院)



修了証書の授与

北方生物圏フィールド科学センター植物園で小学生向け公開講座「葉っぱで作る植物図鑑」を開催

北方生物圏フィールド科学センター 耕地圏ステーション植物園では、7月26日(木)・27日(金)の2日間にわたり、大学等地域開放特別事業「葉っぱで作る植物図鑑」を開催しました。

この企画は、例年同時期に、小学生

を対象として実施しており、本年度も2日間で4回(1日2回)、合計40名の小学生が参加しました。

両日とも天候に恵まれ、参加者たちは園内でハルニレの観察や葉っぱの採集をした後、室内に入り、職員の指導

により図鑑づくりに取り組みました。

植物園では、3月にも小学生を対象とした「冬の植物園 ウォッチングツアー」の開催を予定しております。

(北方生物圏フィールド科学センター)



園内で葉っぱの採集を行う参加者たち



室内で図鑑づくりに取り組む参加者

総合博物館で博物館の「建物」に注目する学生企画ワークショップを開催 ～めぐる建物 感じる歴史 みんなのまなざし再発見～

北海道大学大学院の授業「博物館コミュニケーション特論 学生発案型プロジェクトの企画・実施・評価」の一環として、受講生11名が博物館の建物を題材にしたワークショップ「めぐる建物 感じる歴史 みんなのまなざし再発見」を開催しました。高校生以上を対象とし、7月13日（金）及び7月22日（日）、2日間とも同じ内容で実施しました。

ワークショップの目的は、多くの人が注目する展示の他に、昭和4年に理学部本館として建てられた博物館の「建物」の魅力を伝え、博物館の新たな魅力を発見していただくこと、そして建築様式への関心を喚起することです。

館内のホールで総合博物館の歴史と建物に関するレクチャーを行った後、館外に出て外観を実際に眺めながら、建築様式を具体的に説明しました。その後、5グループに分かれてそれぞれ学生2名が担当する館内ツアーに出発しました。博物館の玄関、中央階段、アインシュタインドーム、3階の階段教室、普段は非公開の博物館の応接室と理学部の大会議室の他、廊下や天井、そして階段にも解説ポイントを設

けました。総合博物館の建物は、創立前は理学部本館として多くの学生・教職員が過ごした場所でした。今回のツアーでは、池上重康先生からご指導いただいた建築学に関する事項だけでなく、理学部の卒業生の方々から伺った当時のエピソードもご紹介しました。

続いて、参加者の方々には、各自の心に響いた館内外の空間の写真を撮影していただきました。その後、博物館ラウンジに集合し、グループ別のテーブルで、お気に入りの写真を紹介し合い、博物館の建物・空間の魅力を語り合いました。普段気にもとめずに通り過ぎていた玄関や階段、廊下が印象的に切り取られたり、手すりの風合いや玄関アーチの陰影に味わいを感じさせる、素敵な写真を撮影していただきました。もともと好きだった場所、今回のレクチャーとツアーで初めて知ったことや改めて気づいた魅力、そして参加者と学生と語り合うことで再発見した建物・空間の見方・・・ミュージアムカフェのおいしいドリンクを片手に話は尽きず、予定時間を超過するほどでした。

初めて来館された方から来館回数の

多い市民や学生、博物館ボランティアなど様々なプロフィールの参加者に回答いただいたアンケートには、「また改めて来ようと思える企画で、参加して良かったです」、「何度も博物館に伺っていますが、新たな発見がありました」、「主催者側からの一方通行になりがちなガイドツアー。それをどうやって参加者全員を交流させる機会を設けるのか・・・学生の創意工夫が感じられるイベントでした。さらに深い部分に関心が湧き、機会があれば博物館の『生き証人』的な方から、その時代時代のエピソードを伺いながら再度めぐってみたいです」といった感想をいただきました。学生達は今後さらに当日の様子を振り返り、このワークショップの意義と課題を検討していきます。

ワークショップを企画する授業のプロセスを伝える学生の記事を、次のURLで公開しています。

<https://www.museum.hokudai.ac.jp/education/museummeister/cat/lesson/>

（総合博物館）

担当学生：安藤瑞帆・雲中 慧・鈴木 花・濱崎瑠菜・山本茉奈（理学院）、大西克弥・押野祐大・渡辺 爽（生命科学院）、近藤喜十郎・野瀬紹未（文学研究科）、遠藤 優（理学部）

協力：池上重康（工学研究院）、理学部卒業生6名

指導：湯浅万紀子（総合博物館）



写真を見せて語り合ったトークの時間



レクチャーの後、博物館の外観の建築様式を説明



館内ツアーでは非公開の理学部会議室にも案内



アインシュタインドームの魅力を再発見



見るべきポイントは階段踊り場にも

北海道大学病院で夜間想定防火訓練を実施

北海道大学病院では、7月18日（水）に夜間の火災発生を想定した防火訓練を実施しました。

今回の訓練は、夜間に11階西側病棟の給湯室から出火したことを想定したもので、公益財団法人札幌市防災協会

の指導のもと、看護師をはじめとする参加者が真剣な面持ちで、通報連絡、初期消火及び模擬患者の避難誘導の訓練に取り組みました。その後、屋外にて消火訓練を行い、一連の訓練を終了しました。

訓練を終え、病院は患者さんの安全を守る立場にあることを再確認する機会となりました。

（北海道大学病院）



模擬患者の避難誘導の様子



消火訓練の様子

北海道大学病院で「第58回ふれあいコンサート 七夕の夕べ」を実施

北海道大学病院では、7月25日（水）、病院アメニティホールにおいて「第58回ふれあいコンサート 七夕の夕べ」を開催しました。毎年、患者サービス推進委員会が中心となって色々な企画を立てていますが、今年も盛りだくさんの内容で開催しました。

コンサートの開演前から行われる縁日コーナーでは、入院中のお子さんが輪投げやヨーヨー釣り等を楽しみ、バルーンアートを手にして、アメニティホールに集まりました。

「早く元気になれますように」など

の患者さんの願いが込められた短冊が涼やかな雰囲気醸し出す中、コンサートは寶金清博病院長の挨拶で開幕しました。

まず、HBC少年少女合唱団による心洗われるような合唱が、続いて本院の庄司哲明医師（内科Ⅰ）による迫力あるオペラ歌唱がそれぞれ披露され、会場は大いに盛り上がりました。その後、今年も北海道大学“縁”によるYOSAKOIソーラン演舞が披露され、会場は大変な熱気に包まれました。

最後に、佐藤ひとみ看護部長の挨拶

で、北海道大学病院の夏の風物詩である「七夕の夕べ」は幕を閉じました。

（北海道大学病院）



縁日コーナーを楽しむ子どもたち



HBC少年少女合唱団による合唱



庄司医師によるオペラ歌唱



北海道大学“縁”による演舞

北海道大学病院が夕張市市民公開講座を開催

北海道大学病院は、7月29日（日）、夕張市老人福祉会館において、夕張市市民公開講座「市民のための生活習慣病講座」を開催しました（主催：本院及び夕張市、後援：夕張市医師会）。

本院と夕張市との間では、昨年9月に「住民の健康増進に関する連携協定」を締結しており、昨年12月に続い

て2回目の公開講座開催となります。

本公開講座は、鈴木直道夕張市長、中條俊博夕張市医師会長、寶金清博病院長からの挨拶で開会し、「認知症とは？～認知症の正しい理解のために～」のテーマで認知症専門医・指導医の大槻美佳准教授（保健科学研究所）が、「特別じゃない、認知症」の

テーマで認知症看護認定看護師の武田桂子副看護師長がそれぞれ講演を行いました。

今回も120名を超える夕張市民が参加し、盛会のうちに終了しました。

（北海道大学病院）



大槻准教授による講演



武田副看護師長による講演



公開講座後の記念撮影

北海道大学病院でデジタルサイネージを導入

北海道大学病院では、本院に関する情報発信と本院利用者に対するサービス向上を目的として、新たにデジタルサイネージを導入し、7月23日（月）から稼働しています。

外来診療棟の総合案内横には75インチのタッチパネル式ディスプレイを2台併設し、フロアマップや受診案内、本院周辺地図等を配信しています。本院が進める病院の国際化に対応し、海外の方も利用できるよう、英語表示に切り替えることができるほか、中国語表示の準備も進めています。

また、医科及び歯科の外来ホールやアメニティホールには大型ディスプレ

イを計5台設置し、診療科からの情報や本院が開催する公開講座の案内等を一定時間毎に自動切り替え配信しています。

今回のデジタルサイネージは、本院の情報発信に加え、民間企業等の広告

も配信し、得られた広告料により、診療機器や病院運用に活用することになっています。

（北海道大学病院）



総合案内横のタッチパネル式サイネージ



各ホールに設置した情報発信用サイネージ

北海道大学納骨堂慰霊式を挙行

医学研究院，歯学研究院，北海道大学病院では，8月1日（水）に北海道大学納骨堂（札幌市豊平区平岸）において，医学及び歯学研究のため尊い御遺体をささげられた御霊の御冥福をお祈りする慰霊式を執り行いました。

慰霊式には，笠原正典理事・副学長，吉岡充弘医学研究院長，八若保孝

歯学研究院長，齋藤 健保健科学研究院長，寶金清博北海道大学病院長ら24名が参列し，参列者全員による黙祷及び献花を行い，厳粛のうちに慰霊式が終了しました。

（医学院・医学研究院・医学部）



献花される笠原理事・副学長

フィンランドをテーマとした図書展示とブックトークを開催

6月11日（月）から7月16日（月）にかけて，附属図書館（北図書館）において，「第3回北海道大学フィンランドデイ：関連資料展示」を開催しました。また，この展示に関連して6月26日（火）と6月27日（水）に各日1回フィンランドからの留学生をゲストに招いたブックトークのイベントを北図書館で行いました。

この展示は，北海道大学欧州ヘルシンキオフィスの主催により6月30日に開催されたイベント「第3回北海道大学フィンランドデイ：みんなで夏至祭を楽しもう！」との連動企画として開催したものです。また，附属図書館は北海道唯一のEU情報センターに指定されており，その活動の一環でもあります。

北図書館での展示も3回目となり，

過去の2回で展示した資料のほか「第3回北海道大学フィンランドデイ」講師陣等の協力により，フィンランドにまつわる資料139点を紹介者のオススメコメントと共に展示し，92点が延べ160回貸出されました。図書展示を告知するためロビーでは，フィンランドの四季折々の写真をスライドショーにして上映しました。映像のBGMにはフィンランドの英雄叙事詩であるカレワラを使用し，不思議な音に多くの方が耳を傾けていました。

また，今回初めてブックトークを行いました。HUSTEPのプログラムでフィンランドから留学しているEmmi Hiivolaさん（26日）とArmi Henrikssonさん（27日）をゲストに招いて，フィンランドの教育・キャラクター・旅行・フィンランド語・フィンランド人

の性格について本を紹介しながらお話してもらいました。26日は17名，27日は24名が参加し，学生や教職員はもちろんフィンランドに興味のある学外の方の参加もありました。質問も活発に行われ，とても楽しいひと時となりました。

（附属図書館）



図書展示の様子



ロビーでの上映の様子



26日のブックトークの様子



27日のブックトークの様子

北海道大学150年史編集準備室を開室

2026年に“創基150年”をむかえるにあたり、「北海道大学150年史編集準備室」が、大学文書館内に設置されました。

150年史編集準備室では、4月1日の開室以来、大学沿革史『北大150年史（仮題）』や写真集など記念出版物の編集事業の準備のため、資料の収集・写真の整理などを進めています。それと共に、リーフレットや広報誌の発行、webページの公開、同窓会や各種イベントでの講演・展示など、創基150年にむけた広報活動をおこなっています。

例えば、5月27日（日）には、北海道大学関西同窓会・関西エルム会主催「北大会館祭（15周年）」において、

当日限定の出張展示をおこないました。展示では、新渡戸稲造（札幌農学校2期生）のジュネーブからの手紙や、「都ぞ弥生」が最初に披露された寮祭のプログラム、1960年代の教養部の時間割表などを陳列し、関西同窓会の皆さまにご覧いただきました。

また、7月20日（金）には、カルチャーナイト（夜間開館）の企画展示として、「アンビシャス！理系女子—女性北大生誕生100年」を開催しました。1918（大正7）年に加藤セチが初の女性“北大生”（全科選科生）となり、北大における女性の学生や研究者・教員たちの先駆けとなってから、ちょうど100年目にあたることを記念したものです。

広報誌としては、ニュースレター『北海道大学150年史編集ニュース』第1号を7月20日に発行しました。同誌では、活動報告や本学の歴史にまつわるコラム、イベント案内などを掲載しています。学内で配布するほか、webでも公開しています。ぜひご一読ください。

（大学文書館）



北大会館祭（室田信男氏撮影）



カルチャーナイト



『編集ニュース』第1号表紙

■お知らせ

組合員証等の検認

「組合員証等の検認」を本年9月に行います。

「組合員証等の検認」は、組合員証・組合員被扶養者証・船員組合員証・船員組合員被扶養者証・高齢受給者証・特定疾病療養受領証・限度額適用認定証の交付を行った組合員に対して行います。

書類等提出期限は9月3日（月）～9月20日（木）です。

各カード証について両面のコピーの提出をしていただき棄損や住所の確認をしますのでご準備ください。

併せて、被扶養者申告書と被扶養者の認定条件に必要な添付書類を提出してください。

なお、紙の証である特定疾病療養受領証は、医師の証明を不要として更新し、限度額適用認定証は、検認印を押印しますので各申請書とともにご提出ください。

また、現在使用している各組合員証等は、検認を受けなければ本年10月1日以降使用することができませんので、速やかに検認してください。

おって、「組合員証等の検認」の詳細は各学部等の共済事務担当係にお問い合わせください。

（文部科学省共済組合北海道大学支部）

レクリエーション

平成30年度学内職員バドミントン大会（個人戦）の開催

平成30年度職員バドミントン大会（個人戦）が、7月9日（月）から7月19日（木）まで本学第2体育館において開催され、総勢68名が参加し、連日熱戦が繰り広げられました。

なお、試合結果は次のとおりです。

（職員バドミントン部）

平成30年度学内職員バドミントン大会（個人戦）対戦表

◆ Aクラス

Aブロック

NO	氏名	所属	HC	対戦相手			順位
				1	2	3	
				高崎 峻介 辻 芳朗	武田 裕二 鈴木 敦生	越前 圭伍 細木 直大	
1	高崎 峻介	国際部国際交流課	3		○	○	1位
	辻 芳朗	病院管理課			21-11	21-13	
2	武田 裕二	研究支援課	0	×		×	3位
	鈴木 敦生	理学研究院			11-21	不戦敗	
3	越前 圭伍	財務部主計課	5	×	○		2位
	細木 直大	財務部主計課			13-21	不戦勝	

Bブロック

NO	氏名	所属	HC	対戦相手			順位
				1	2	3	
				飯田 純二 杉本 拓也	中鉢 健太 谷内 翔	西村 匡史 野崎 裕貴	
1	飯田 純二	工学系事務部経理課	0		○	○	1位
	杉本 拓也	工学系事務部経理課			21-13	21-17	
2	中鉢 健太	工学研究院	9	×		×	3位
	谷内 翔	工学研究院			13-21	9-21	
3	西村 匡史	メディア・観光学事務部	5	×	○		2位
	野崎 裕貴	研究推進部産学連携課			17-21	21-9	

※HC（ハンディキャップ）は、対戦相手ペアに与えるポイントです。
※試合は、対戦相手ペアのHCと相殺されたポイントからスタートします。



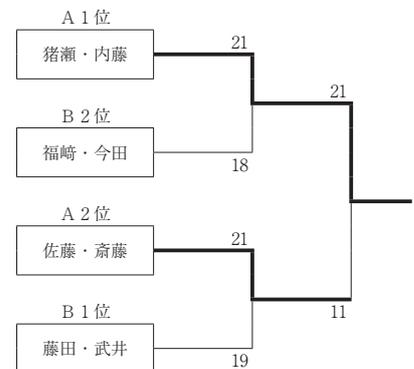
◆ Bクラス

Aブロック

NO	氏名	所属	HC	対戦相手			順位
				1	2	3	
				増井 啓太 鈴木 里奈	猪瀬 昌 内藤 輝章	佐藤 陽亮 斎藤 史明	
1	増井 啓太	学務部教育推進課			×	○	3位
	鈴木 里奈	学務部学生支援課			17-21	21-18	
2	猪瀬 昌	病院管理課		○		×	1位
	内藤 輝章	北キャンパス合同事務部			21-17	19-21	
3	佐藤 陽亮	低温科学研究所		×	○		2位
	斎藤 史明	低温科学研究所			18-21	21-19	

Bブロック

NO	氏名	所属	HC	対戦相手			順位
				1	2	3	
				本多 佑輔 城 弘次	藤田 和之 武井 将志	福崎 陽介 今田 裕一	
1	本多 佑輔	医学系事務部会計課			×	×	3位
	城 弘次	医学系事務部会計課			12-21	6-21	
2	藤田 和之	低温科学研究所		○		○	1位
	武井 将志	低温科学研究所			21-12	21-12	
3	福崎 陽介	施設部環境配慮促進課		○	×		2位
	今田 裕一	財務部主計課			21-6	12-21	



■ 諸会議の開催状況

役員会（平成30年7月9日）

議案・「授業料未納者の退学に係る運用の見直しについて（骨子案）」の一部修正について

- ・学長裁量経費「研究者への科研費支援策」について
- ・平成31年度概算要求の提出について

協議事項・諸規則の制定及び一部改正について

報告事項・全学運用教員の実施状況報告について

- ・平成30年度北海道大学進学相談会について
 - ・平成29年度内部監査報告について
 - ・超過勤務実績について
-

教育研究評議会（平成30年7月25日）

議題・経営協議会の学外委員について

- ・諸規則の制定及び一部改正について

報告事項・全学運用教員の実施状況報告について

- ・「北海道大学緑のビアガーデン2018」及び「北海道大学緑のジンギスカンWineガーデン&Beer祭り」の開催について
 - ・広報誌等への広告掲載の取扱いについて
 - ・平成29年度決算について
-

役員会（平成30年7月26日）

議案・諸規則の制定及び一部改正について

- ・国立大学経営改革促進事業の申請について
-

※規程の制定、改廃については、「学内規程」欄に掲載しています。

■ 学内規程

国立大学法人北海道大学における財務及び会計に関する職務権限規程の一部を改正する規程

(平成30年7月13日海大達第106号)

平成30年7月1日付で、事務組織を改組したことに伴い、所要の改正を行ったものです。

国立大学法人北海道大学組織規則の一部を改正する規則

(平成30年8月1日海大達第107号)

国立大学法人北海道大学国際連携機構規程の一部を改正する規程

(平成30年8月1日海大達第109号)

国立大学法人北海道大学高等教育推進機構規程の一部を改正する規程

(平成30年8月1日海大達第110号)

北海道大学教務委員会規程の一部を改正する規程

(平成30年8月1日海大達第113号)

北海道大学学生委員会規程の一部を改正する規程

(平成30年8月1日海大達第114号)

北海道大学NITOBED教育システム運営会議規程等の一部を改正する規程

(平成30年8月1日海大達第115号)

国立大学法人北海道大学事務組織規程の一部を改正する規程

(平成30年8月1日海大達第116号)

北海道大学通則の一部を改正する規則

(平成30年8月1日海大達第117号)

北海道大学大学院通則の一部を改正する規則

(平成30年8月1日海大達第118号)

北海道大学研究生規程の一部を改正する規程

(平成30年8月1日海大達第119号)

北海道大学学生寮規程の一部を改正する規程

(平成30年8月1日海大達第120号)

国立大学法人北海道大学職員労働時間、休憩、休日及び休暇規程等の一部を改正する規程

(平成30年8月1日海大達第123号)

平成30年8月1日付で、高等教育推進機構及び国際連携機構が改組されること並びに学生相談総合センターが新設されることに伴い、所要の改正を行ったものです。

国立大学法人北海道大学アドミッションセンター規程の一部を改正する規程

(平成30年8月1日海大達第108号)

北海道大学現代日本学プログラム課程及びインテグレイテッドサイエンスプログラムの入学者を選抜するための試験を行う部会の設置に伴い、所要の改正を行ったものです。

国立大学法人北海道大学高等教育推進機構日本語・日本文化研修コース規程

(平成30年8月1日海大達第111号)

国立大学法人北海道大学高等教育推進機構日本語研修コース規程

(平成30年8月1日海大達第112号)

平成30年8月1日付で、高等教育推進機構及び国際連携機構を改組し、高等教育推進機構に、外国人留学生に対する日本語、日本文化及び日本事情に関する教育プログラムとして日本語・日本文化研修コースを置くこと及び外国人留学生に対する日本語教育プログラムとして日本語研修コースを置くことに伴い、当該研修コースの実施に関し所要の定めを行ったものです。

国立大学法人北海道大学契約職員就業規則等の一部を改正する規則

(平成30年8月1日海大達第121号)

平成30年8月1日付けで、国立大学法人北海道大学国際連携機構規程（平成28年海大達第128号）が改正されることに伴い、規定の整備を行ったものです。

国立大学法人北海道大学における教員の任期に関する規程の一部を改正する規程

(平成30年8月1日海大達第122号)

平成30年8月1日付けで、高等教育推進機構及び国際連携機構が改組されること並びに北海道大学病院の病院長付に採用する准教授について大学の教員等の任期に関する法律第4条第1項第1号に基づき任期を定めることに伴い、所要の改正を行ったものです。

北海道大学学生相談総合センター規程

(平成30年8月1日海大達第124号)

北海道大学学生相談総合センター運営委員会規程

(平成30年8月1日海大達第125号)

平成30年8月1日付けで、本学に学内共同施設として学生相談総合センター（以下「センター」という。）を設置することに伴い、センターの組織及び運営並びにセンターに置かれる運営委員会の組織及び運営について所要の定めを行ったものです。

北海道大学保健センター規程の一部を改正する規程

(平成30年8月1日海大達第126号)

北海道大学保健センター運営委員会規程の一部を改正する規程

(平成30年8月1日海大達第127号)

平成30年8月1日付けで、高等教育推進機構の構成施設となること並びに高等教育推進機構及び国際連携機構の改組に伴い、所要の改正を行ったものです。

表敬訪問

海外

年月日	来訪者	来訪目的
30.7.5	忠北大学校 Yun Yeo-Pyo 総長	名誉学位授与式出席及び両国の交流に関する懇談
30.7.19	在日インド大使館 Purnima Rupal 参事官(科学技術担当)	両国の交流に関する懇談
30.7.26	国立台湾大学 Kuo-Hsien Su 社会科学学院院長	両国の交流に関する懇談



忠北大学校 Yun Yeo-Pyo 総長(左)



在日インド大使館 Purnima Rupal 参事官(科学技術担当)(中央)



国立台湾大学 Kuo-Hsien Su 社会科学学院院長(前列左)

(国際部国際連携課)

■人事

平成30年7月25日付発令

新職名(発令事項)	氏名	旧職名(現職名)
【経営協議会委員】 (期間：平成32年7月24日まで)	牧野 剛	北海道経済産業局長

平成30年8月1日付発令

新職名(発令事項)	氏名	旧職名(現職名)
【施設長等】 学生相談総合センター長 (期間：平成31年3月31日まで)	児矢野 マリ	大学院法学研究科附属高等法政教育研究センター教授
【教授】 高等教育推進機構教授 高等教育推進機構教授	高橋 彩 山下 好孝	国際連携機構国際教育研究センター教授 国際連携機構国際教育研究センター教授

新任部局長等紹介

平成30年8月1日付

学生相談総合センター長に



こやの 児矢野 マリ 教授

平成30年8月1日付けで学生相談総合センターが設置され、センター長として児矢野マリ教授が発令されました。

任期は、平成31年3月31日までです。

略歴

平成元年3月 東京大学法学部卒業
平成元年4月 東京大学法学部助手
平成3年4月 東京大学大学院法学政治学研究科助手
平成3年6月 ケンブリッジ大学LL.M(法律学修士)課程修了
平成3年6月 LL.M(法律学修士)(ケンブリッジ大学)
平成6年4月 (文部省)学位授与機構審査研究部助教授
平成7年1月 国際法ディプロマ(ケンブリッジ大学)
平成9年4月 静岡県立大学専任講師
平成14年4月 静岡県立大学国際関係学部助教授
平成20年4月 北海道大学大学院法学研究科教授
平成22年4月 北海道大学大学院公共政策学連携研究部教授
平成24年4月 北海道大学大学院法学研究科教授
平成27年4月 北海道大学大学院法学研究科附属高等法政教育研究センター教授
平成29年4月 北海道大学総長補佐

名誉教授 ^{もりた} 森田 ^{ゆたか} 穰 氏
(享年79歳)



名誉教授 森田 穰先生が平成30年5月19日にご逝去されました。

先生は、昭和42年3月に北海道大学医学部医学科を卒業され、インターン研修後に北海道大学医学部第一外科学講座にて、臨床研修、研究を始められました。昭和47年4月に北海道大学医学部附属病院放射線部助手、昭和49年7月に同大学医学部附属病院放射線医学講座講師、昭和59年8月には同助教授に昇任され、その間、日本のみならず北米やドイツを中心に、国際学会における特別講演や招待講演を通じて、画像診断学及び画像下治療(Interventional Radiology: IVR)を主導してこられました。

さらに、昭和59年9月から12月の間、ミュンヘン大学医学部放射線科の求めに応じて招聘教授として赴任さ

れ、世界的に評価の高いご自身の肝・胆・膵悪性腫瘍に関する血管造影技術をドイツにおいて教授し普及されました。帰国後、昭和60年4月に北海道大学医療技術短期大学部診療放射線技術学科教授に就任され、診療放射線技師教育にも尽力されることとなりました。

多数の臨床医学系科目の担当によって教育に携わるばかりでなく、平成9年4月から平成13年3月まで、同短期大学部部長及び北海道大学評議員をお務めになり、同短期大学部の運営と発展に力を尽くされました。特にその間、同短期大学部の4年制化に向けた準備を強く推し進められ、平成15年10月の医学部保健学科の新設に至っています。そして、平成15年3月に定年退職され、同年4月に北海道大学名誉教授の称号が授与されました。

このような多忙な教育と大学運営の活動の中にあっても、先生は放射線医学の臨床研究を続けられました。IVR会誌(日本血管造影・IVR学会機関誌)編集委員長、画像診断編集委員、SCVIR(ヨーロッパIVR学会機関誌)編集委員の他、多数の学会の評議員や代表幹事として活躍され、日本における血管造影・IVRの発展と普及、国際

化に大きな力を注がれました。殊に、平成7年6月の「第24回日本血管造影・IVR学会」や平成9年7月には「第9回日独放射線医学交流会」を会長として主催され、札幌で開催された後者の国際学会は大成功の大会として語り継がれています。また、血管造影・IVR領域における国内有数の名医である証として、昭和天皇の御崩御前、治療医の候補として待機されていたことが挙げられます。

生前、先生がよく冗談でおっしゃっていた「病院に科は二つしかない、なおすかなおさないかだ」というお言葉には、医学の本質と医師・医療人としての矜持が感じられます。お亡くなりになる直前まで、ご自身の長年にわたる臨床研究の成果をまとめる作業をされていたと聞きます。

以上のように、学術の進歩へのご貢献とともに、確固たる信念に基づいた教育を通して数多くの教え子たちに多大な影響を与えた先生のご功績をたたえ、ここに先生のご冥福を心よりお祈り申し上げます。

(保健科学院・保健科学研究院)

北海道大学
HOKKAIDO UNIVERSITY

今年も開催します!
**北海道大学
ホームカミングデー
2018**

2018.9.29 (土)

会場 北海道大学 札幌キャンパス

主催 北海道大学
共催 北海道大学
校友会エルム

HOKKAIDO UNIVERSITY
HOMECOMING
DAY 2018
Be ambitious again!

お問い合わせ先
北海道大学 総務企画部 広報課 TEL:011-706-2012
受付時間 9:00~17:00 (土・日・祝日を除く) FAX:011-706-2092

編集メモ

- 「緑のビアガーデン2018」は、天気にも恵まれ、連日多くの皆様にお越しいただきました。また、セイコーマート北海道大学店のオープン記念イベントとして、「緑のジンギスカン Wineガーデン&Beer祭り」を開催し、多くの皆様楽しんでいただきました。お越しいただいた皆様、ありがとうございました。
- 9月29日(土)に、ホームカミングデー2018を開催します。

本年度も、クラーク会館で開催する全学行事の歓迎式典・記念講演会に加え、部局・同窓会主催行事を実施します。

ホームカミングデー2018オフィシャルサイトでは参加申込を受け付けているほか、随時内容の更新をしていますので、ぜひご覧ください。皆様のご来場を心よりお待ちしております。

◆<https://www.hokudai.ac.jp/home2018/>



2014.8.9 函館本線 落部～野田生（八雲町）

北の鉄道風景 65 夜行列車が往く

非有効時間帯である深夜を活用して目的地へ移動できることを特長とする夜行列車。「まりも」や「大雪」などのように、道内の都市間で運行される夜行列車がかつて存在した。また、青函トンネルの開業によって「北斗星」・「カシオペア」, 「はまなす」や「トワイライトエクスプレス」といった道外各地と札幌を結ぶ夜行列車の運行が始まった。しかし、特急列車の高速化による移動時間の短縮や、夜行バスとの競合によって、道内都市間の夜行列車は2008年8

月まで運行された札幌－釧路間の「まりも」をもって全廃となった。更に新幹線の開業によって、本州－北海道間の夜行列車も2016年3月まで運行された「カシオペア」をもって全て廃止されてしまった。写真は夜の内浦湾沿いを往く「カシオペア」である。このような情景はもう二度と見られないことに一抹の寂しさを感じる。

情報科学研究科 准教授 山本 学

北大時報 ⑧ No.773 平成30年8月発行

北海道大学総務企画部広報課 〒060-0808 札幌市北区北8条西5丁目

TEL：(011) 706-2610 / FAX：(011) 706-2092 / E-mail：kouhou@jimuhokudai.ac.jp

北大時報はインターネットでもご覧いただけます。https://www.hokudai.ac.jp/pr/publications/jihou.html